

e発明塾

ガイドブック



『ダントツ』知財力と発明力で
圧倒的な成果を生み出す

各講座の詳細は、「e発明塾」で検索、
または、右のQRコードから、e発明塾紹介サイトへアクセスし
ご確認ください。

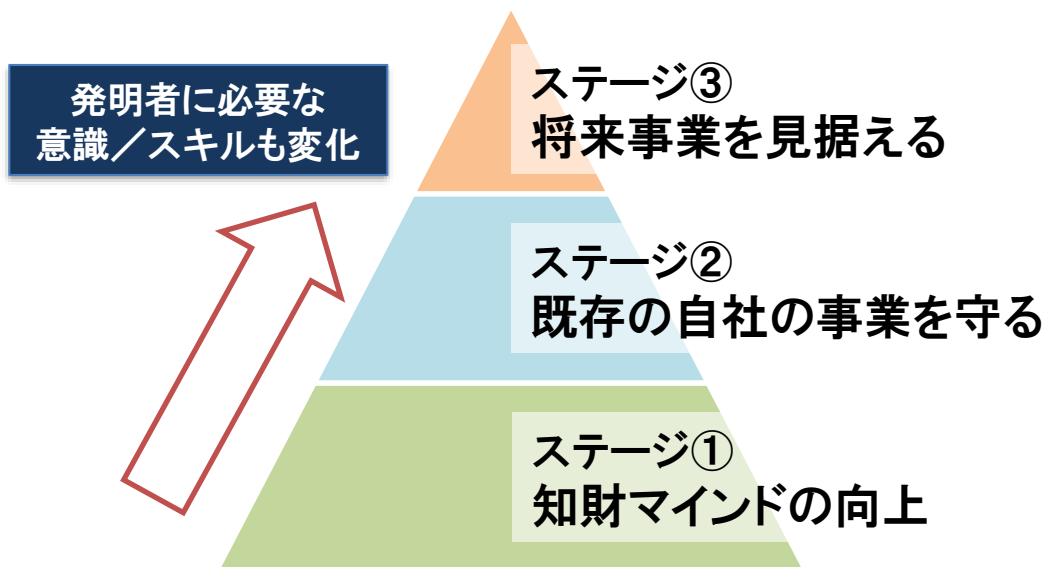


-目次-

- 【1】 「知財活動」は「発明者」から始まる
～目指す「知財活動」のために、発明者に何が必要か～
- 【2】 継続的・計画的・戦略的に「発明者を育成」
～各段階の「課題」をひとつひとつ解決する～
- 【3】 身につけてほしいスキル・知識と「推奨講座」一覧
～必要とされるアウトプット、対応するスキル・知識から講座を探す～
- 【4】 「継続できない」「定着しない」理由は？
～「インプット」だけでも「アウトプット」だけでもダメ～
- 【5】 「学習」を「アウトプット」につなぐ教材とプログラム
～さらに「事例研究」を併用、「反転学習」でスキルの定着を～
- 【6】 e発明塾で「アウトプット」を創出
～新規研究・開発テーマ創出や「先読み出願」に活用～

【1】「知財活動」は「発明者」から始まる

～目指す「知財活動」のために、発明者に何が必要か～



知財活動を3段階に分けると？

ステージ① 「知財マインド向上の段階」

侵害リスクの低減

- ✓ パテントクリアランスについて、開発担当者の意識・知識が十分でない。
- ✓ 回覧している特許公報(SDI)を、しっかり読み内容を確認してほしい。

発明提案の活発化

- ✓ 出願件数が少ない。もっと発明提案をしてほしい。

ステージ② 「既存の自社事業を守る段階」

権利化の促進

- ✓ 新しく開発した技術や製品に関する発明を、拾いきれていない。
- ✓ 先行技術を調査し、「権利になるポイント」が明確な発明提案書を作成してほしい。

他社を意識した出願

- ✓ 他社を排除できる「強い特許」になるよう、発明を強化・展開し、提案してほしい。
- ✓ 他社の出願動向を分析し、対抗できる質と量の発明を出してほしい。

ステージ③ 「将来の事業を見据える段階」

将来の収益源になる事業アイデア

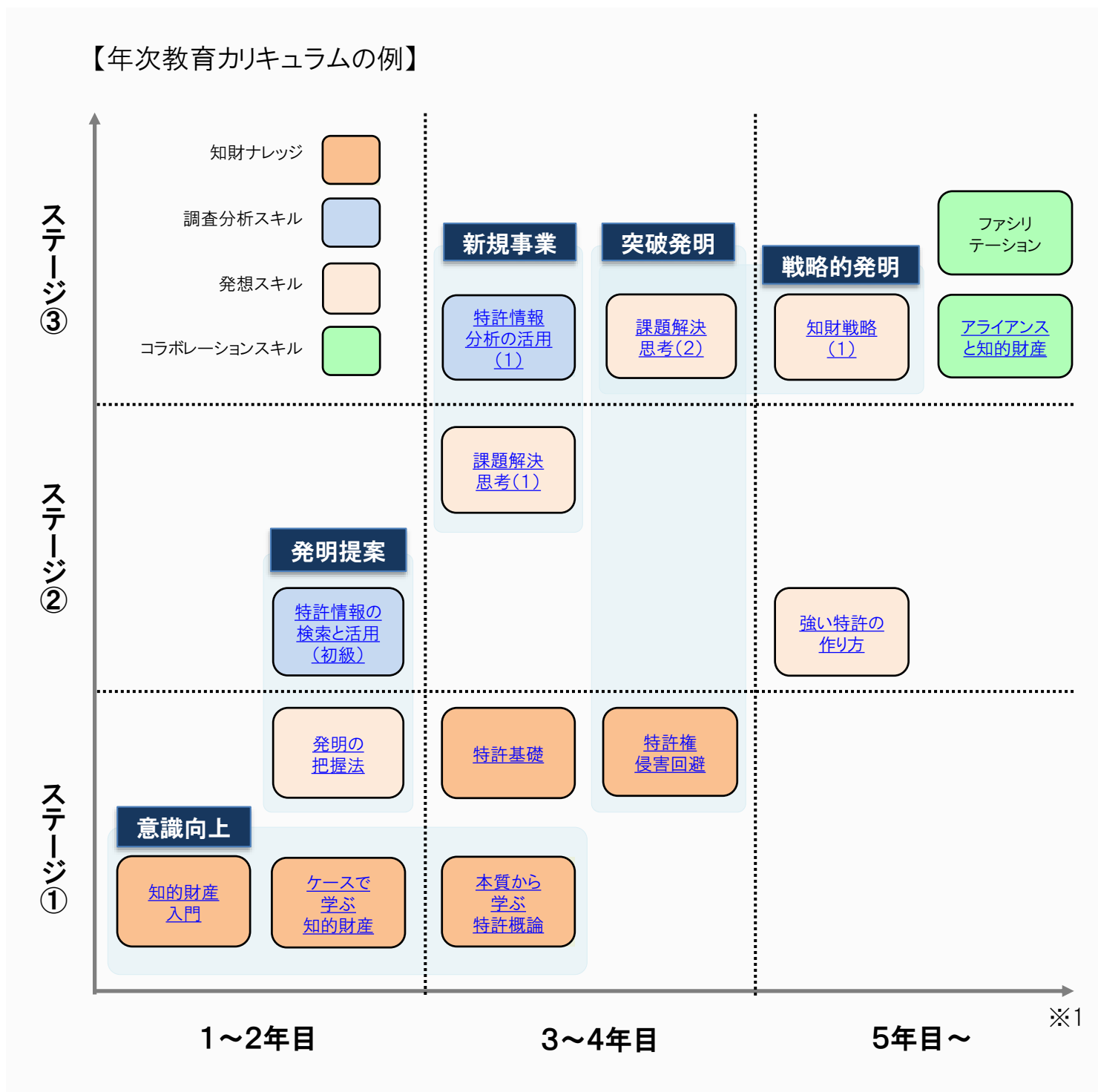
- ✓ 特許情報分析を活用し、将来の事業の種になる発明を創出してほしい。
- ✓ 開発段階から、事業で将来必要になる特許群の創出に取り組んでほしい。

将来に備えた「武器」になる知財

- ✓ 他社特許群の技術思想を進化させ、突破する発明を生み出してほしい。
- ✓ 攻めと守りの知財戦略を意識した発明を出してほしい。

【2】 継続的・計画的・戦略的に「発明者を育成」

～各段階の「課題」をひとつひとつ解決する～



※1 受講対象年次(入社後年次)は、あくまでも一例です。

各講座の詳細は、「[e発明塾](#)」で検索、
または、右のQRコードから、e発明塾紹介サイトへアクセスし
ご確認ください。



【3】身につけてほしいスキル・知識と「推奨講座」一覧

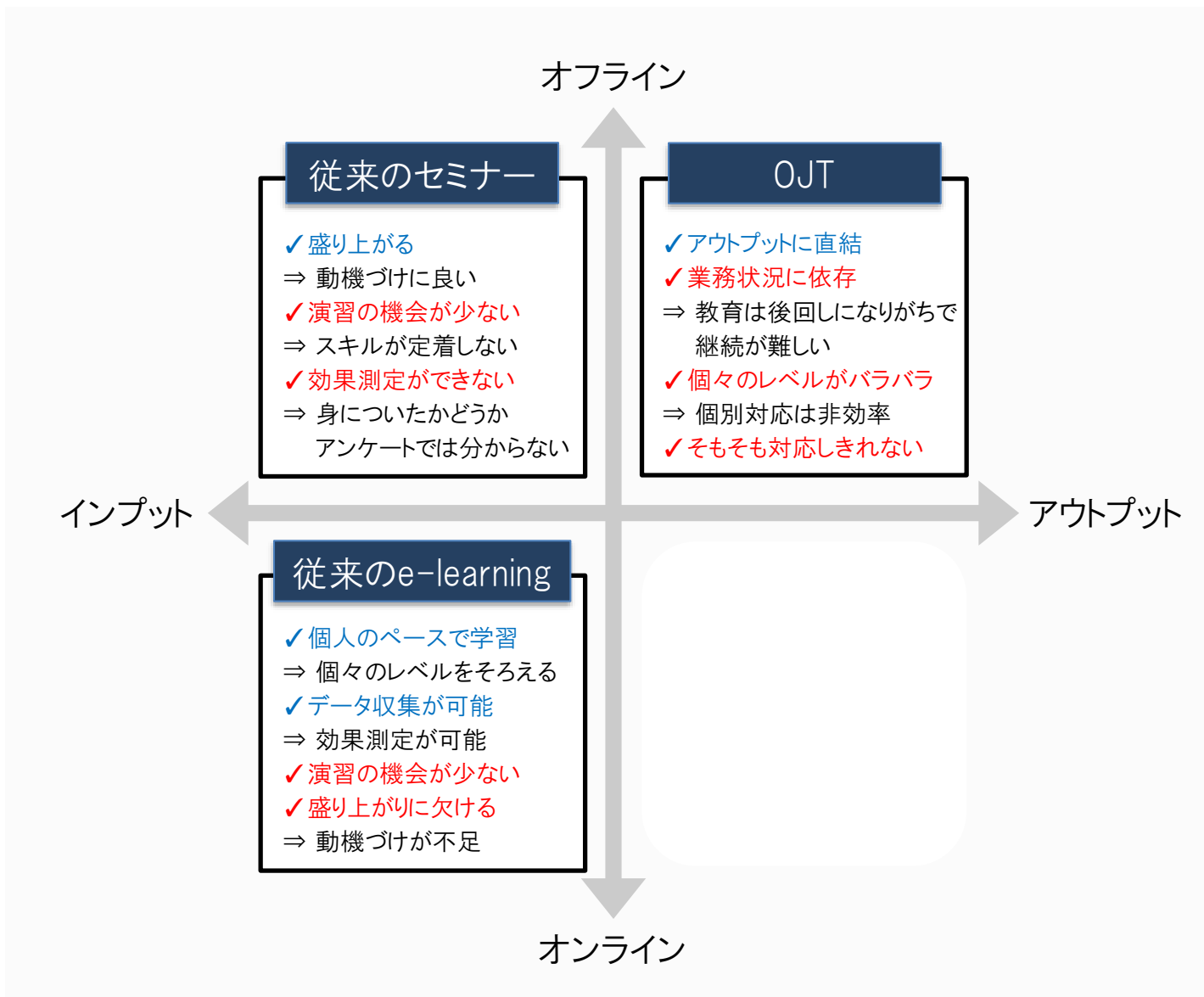
【目的別カリキュラムの例】

※ 開発中の講座

| | 対象者 | 求められるアウトプット | 対応するスキル・知識と 該当する講座 |
|-------|--|---|--|
| ステージ③ | ✓リーダー層 ✓例えば、 入社後5年目以降での 受講を推奨 | ✓討議を主催・支援し、 複数の参加者から アイデア 引き出すことができる。 | > ファシリテーションスキル 『 ダントツ発明力事例研究 』 による演習プログラム |
| | | ✓共同研究などの際、知財の取り扱いや 契約について、 適切に対応 できる。 | > 契約知識 『 アライアンスと知的財産 』 |
| | | ✓業界や競合他社の動向を分析し、 権利化すべき発明 を創出できる。 | > 攻めと守りの知財戦略 『 知財戦略(1) 』 > 先読みの発想法 『 課題解決思考(2) 』 |
| | | ✓事業の障害になる特許について、 その 技術思想を見抜き、進化 させ、 突破する発明を創出できる。 | > 他社特許突破発明 『 課題解決思考(2) 』 > 侵害判断・回避スキル 『 特許権侵害回避 』 |
| ステージ② | ✓出願件数上位の 研究開発者 ✓例えば、 入社後3～4年目での 受講を推奨 | ✓外国特許制度・ファミリー特許の知識を もとに、他社の 外国出願 を調査できる。 また、出願すべき国が想定できる。 | > 外国特許制度の知識 『 外国出願戦略 』※ |
| | | ✓自身の発明を、事業に役立つ 「 強い特許 」になるよう、強化できる。 | > 発明を「強い特許」へ発展 『 強い特許の作り方 』 |
| | | ✓自社の コア技術 が強みが生かせる 新たな顧客ニーズを発掘し、 新規事業創出 に貢献する。 | > ニーズ発掘発想法 『 課題解決思考(1) 』 > ニーズ発掘のための分析 『 特許情報分析の活用(1) 』 |
| ステージ① | ✓自身の発明について、 数件の出願経験がある 研究開発者 ✓例えば、 入社後1～2年目での 受講を推奨 | ✓知的財産について 基本的な用語 や 制度を理解し、 回覧される特許公報 (SDI)を読みこなすことができる。 | > 特許の基礎と公報の読み方 『 本質から学ぶ特許概論 』 > 知的財産に関する知識 『 知的財産入門 』 > 知財リスクへの対処 『 ケースで学ぶ知的財産 』 |
| | | ✓どのような製品や行為が 特許権侵害 に あたるか、 基礎的な判断 ができる。 | > 侵害判断・回避スキル 『 特許権侵害回避 』 |
| | | ✓実験結果から発明の本質を把握し、 権利になるポイントが明確 に記載された 発明提案書 を作成できる。 | > 発明把握スキル 『 発明の把握法 』 > 検索スキル 『 特許情報の検索と活用 』 |

【4】「継続できない」「定着しない」理由は？

～「インプット」だけでも「アウトプット」だけでもダメ～



従来の教育法の問題点

- ✓ アウトプットを重視すると、個別対応になり非効率
- ✓ 特定の時間・時期や担当者に負荷が集中する教育方法では、継続が難しい
- ✓ インプットを重視すると、実践で使えるスキルが習得できない
- ✓ 繰り返しスキルを鍛える機会がないため、定着しない

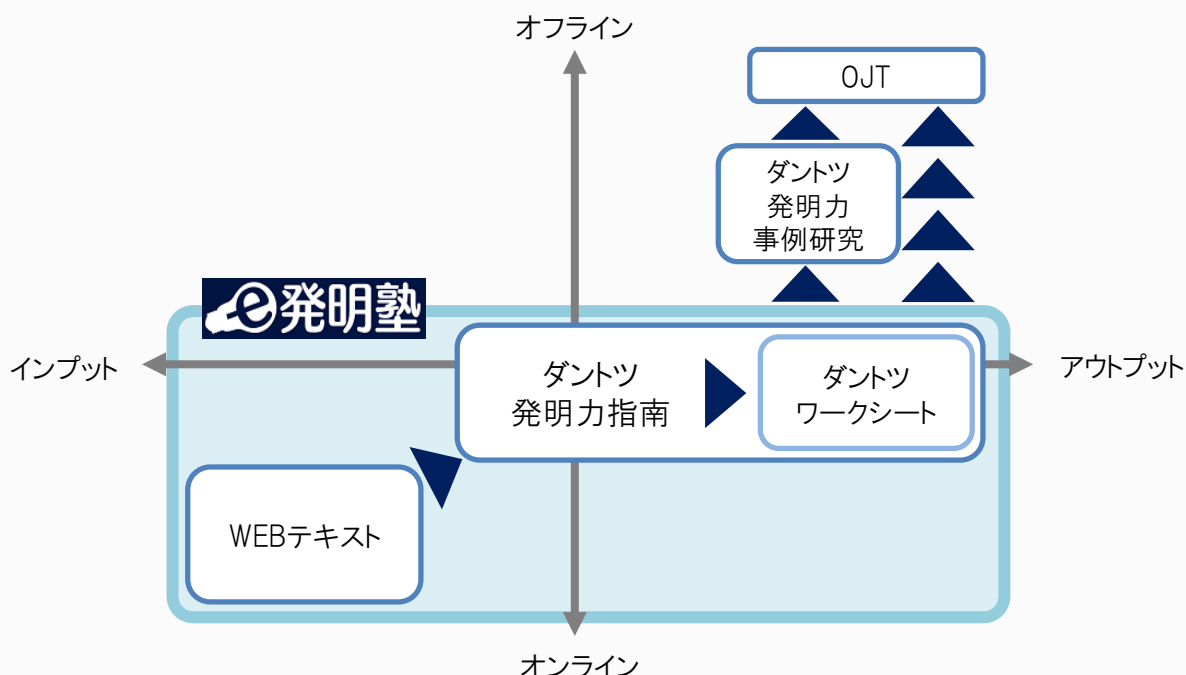
このような教育法があれば・・・

- ✓ 実践で使えるスキルを身につける
- ✓ 負荷を平準化し、計画的・継続的・効率的にスキルを向上させる
- ✓ 自身の業務上のアウトプットを生み出しながら、スキルを向上させる

「e発明塾」で解決します！

【5】「学習」を「アウトプット」につなぐ教材とプログラム

～さらに「事例研究」を併用、「反転学習」でスキルの定着を～



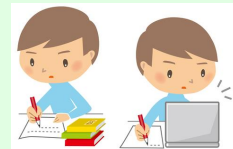
「e発明塾」の特長と使用方法

【特長】

- e発明塾は、インプットからアウトプットまでを、シームレスにつなぐ教材です。
- 従来の「セミナー」「e-learning」の問題、および「OJT」の問題を、いずれも解決しています。

【使用方法】

- e発明塾は、以下3つの教材で構成されます。(受講イメージは[こちら](#))
 - ✓ WEBテキスト：インターネットを通じて配信する電子テキストです。WEBブラウザでご覧いただけます。
 - ✓ ダントツ発明力指南：WEBテキストの内容に関する設問と回答欄を設けた、「書き込み式」の冊子教材です。
 - ✓ ダントツワークシート：受講者が、学んだ内容を自身の業務で実践いただくための記入・提出用紙です。
- 例えば、受講後に受講者自身の業務について「ダントツワークシート」に記入いただくことを、推奨します。



ダントツ発明力事例研究を利用した「特許権侵害回避」演習(例)

- アウトプット創出に必要なスキルを定着させるには、演習を繰り返す必要があります。
- ダントツ発明力事例研究は、e発明塾で学んだスキルを定着させるための演習教材です。
- ダントツ発明力事例研究とは？
 - ✓ 特許公報を題材にした複数の設問からなります。設問に回答いただきながら、討議・演習を進めます。
 - ✓ 業務に関連した特許公報を題材にするため、実際の業務に近い感覚で取り組んでいただけます。
 - ✓ 「特許権侵害回避」以外にも、e発明塾の講座それぞれに対応する事例研究があります。
- 事前にe発明塾「特許権侵害回避」を受講いただいた上で、事例研究を用いた演習(集合教育)を実施します。

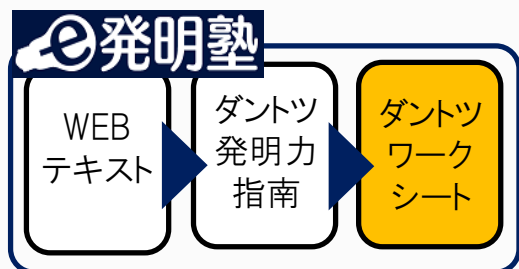


反転学習とは？

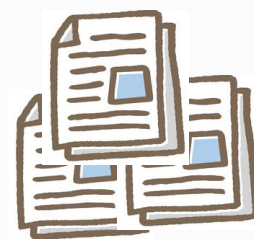
- 各自が独習で必要な知識・スキルを習得した後に、集合形式で演習・討議・質疑応答などを行う学習法です。
- 反転学習って何がいいの？
 - ✓ 各自のペースで事前に学習が可能で、忙しい研究開発者の方に最適です。
 - ✓ 必要な基礎知識を全員が事前に学んでいるため、演習・討議にじっくり取り組むことができます。
 - ✓ 事前学習で受講者の知識・スキルのレベルが揃うため、効率よく演習・討議を進められます。

【6】 e発明塾で「アウトプット」を創出

～新規研究・開発テーマ創出や「先読み出願」に活用～



自身の研究・開発
テーマについて
ワークシートに記入



新規テーマ・出願の
「種」を回収

e発明塾を用いて、新規研究・開発テーマや先読み出願の「種」を回収

- e発明塾に付属のダントツワークシートを用い、新規研究・開発テーマの「種」を回収します。
- 将来に向け権利化しておきたい発明(先読み出願の「種」)の掘り起こしにも、利用できます。

e発明塾通信

TechnoProducer株式会社では、メールマガジン”e発明塾通信”を発行しています。発明塾での講義内容、優れた技術思想を巧妙に権利化した「エッジ特許」情報など、発明塾のエッセンスを毎週配信。

お申し込み(無料)は <https://e-hatsumeijuku.techno-producer.com/ehatsumeijuku-tsushin>



お問い合わせ先

TechnoProducer株式会社

<http://www.techno-producer.com>

TechnoProducer株式会社 e発明塾事務局

e-hatsumeijuku@techno-producer.com

各講座の詳細は、「e発明塾」で検索、
または、右のQRコードから、e発明塾紹介サイトへアクセスし
ご確認ください。

